

(第11号様式)

## 事業実施報告書

### 1 事業の名称

フィリピンスタディツアー

### 2 実施時期及び実施期間

平成28年 2月19日(金)～平成28年 2月24日(水)  
(6日間)

### 3 実施場所

フィリピン セブ島

### 4 実施主体

ハートフル広島

### 5 事業の目的

途上国の実情を五感でつかみ取り、アジアの中の友人として、自分たちにできることを模索したいと考えています。昨年より、フィリピンとのつながりができ、継続した関係を築くために、サークル内では様々なプロジェクトを行っています。異文化交流、国際協力のためのセミナー、フェアトレードの実施計画、英語コミュニケーション研修会など。この活動は、途上国を支援するというだけでなく、英語を公用語とする現地の学生とは活発な意見交換ができることもあって、自分たちの学修にもなることが大前提となっています。この夏のスタディツアーを皮切りに、継続した交流と支援活動を展開する計画でいます。ともにアジアの未来を担う若者として、手を取り合うことができる絆と継続交流のための布石を築きたいと思っています。内にこもりがちな日本人の若者という概念を払拭したい思いもあります。グローバル社会の一員として社会に参加したいと常々思っています。

### 6 実施内容(箇条書き)

- ・Glolea Cebu 訪問と現地ボランティア：貧困地域ロレガを訪問し、人々の生活の様子を知る。また、食事や活動のボランティアを行い人々と交流する。
- ・広島フィリピン友好協会の現地パートナーと支援している小学校を訪問し現地の様子を調査する
- ・現地の大学生との国際交流会 (University of San Jose-Recoletos Magallanes Street, 6000, Cebu City, Philippines) それぞれの文化紹介 授業への参加：3コマ(約6時間の授業に参加させていただきます。交流会、大学施設使用料を兼ねた登録料を一括請求あり。)
- ・座談会「フィリピンに必要な支援と実際」「アジアの未来を共に考える～日本との絆を深める方法～」
- ・フィリピンの産業の実態を知り、フェアトレードの施設見学を通して、自分たちにできることを模索する
- ・各グループの課題にそって現地フィールドワークを行う。

7 参加人数又は派遣人数（国外に派遣した場合、広島市民の人数も）

6名参加（広島に通学する学生）

8 実施効果（箇条書き）

- ・参加者一人一人が、セブの人々の暮らしについて考える機会を持った。貧困の連鎖はなぜ起きるのか、貧困を断ち切るためにはどうすればいいのか、ストリートチルドレンはどうやってここから抜け出せるのか、多くのことを話し合った。
- ・セブ島のどこにいても、英語が通じることに驚いた。英語を学ぶ環境が整っている。
- ・人々がとても親切で優しい。歴史をふまえても、日本に対して友好的であった。
- ・今ある自分たちの環境に感謝する気持ちを持った。同時に、格差社会に立ち向かっていきたいという気持ちを持つことができた。
- ・コミュニケーションの基本は、英語だが、一番は心ではないかということに気づいた。

(第13号様式)

## 事業実施内容及び所感文

事業名：フィリピンスタディツアー

団体名：ハートフル広島

実施時期及び実施期間：平成28年2月19日(金)～平成28年2月24日(水)  
(6日間)

実施内容：

日 程	場 所	交流・協力活動名	内 容
平成28年 2月19日(金)	福岡空港から セブ島へ		BUSAN エアラインにて Busan 経由で セブ島マクタン国際空港に移動
2月20日(土)	セブ島貧困地区ロ レガ訪問	GLOLEA CEBU セブ島の NGO 団体	GLOLEA CEBU の方が支援している ロレガ地区を訪問し、子どもたちの 教育支援、食事支援に携わる。
2月21日(日)	セブ島フィールド ワーク	各自のフィールド ワーク	各自のテーマに沿ってフィールド ワーク。「セブ島の交通事情」「セブ 島の賃金格差」など
2月22～24日(水)	USJ-R	セブ島の総合大学 USJ-R	大学での授業参観と交流会活動 附属高校にてスピーチコンテスト を見学
所 感	初めて開発途上国を訪れた学生たちは、環境の違いに当初無口になっていたが、初日、NGO 活動で子どもたちと一緒に活動をし、貧しさの中でもキラキラと笑顔で接してくる子供たちに感動し、次第に現地に溶け込んでいった。貧困と富裕層が壁一枚隔てて存在していることに驚き、なぜこんなにも不公平なのだろうと憤りながら、自分たちも安全で安穏とした暮らしになれていることを振り返っていた。また、大学訪問では、学生たちの学修意識の高さに圧倒され、なんとなく勉強していた自分たちの姿を反省し、英語力でも叶わないことに悔しさを覚え、今後の自分の目標を打ち立てられたようである。海外に出て初めて知る日本という国の素晴らしさや、自分の置かれた境遇を振り返ることができ、自分の目標を見つけることができたとして述べている。セブ島では、多くの方に出会い、できる限りのコミュニケーションをとって、幅広い交流ができた素晴らし経験となっている。		

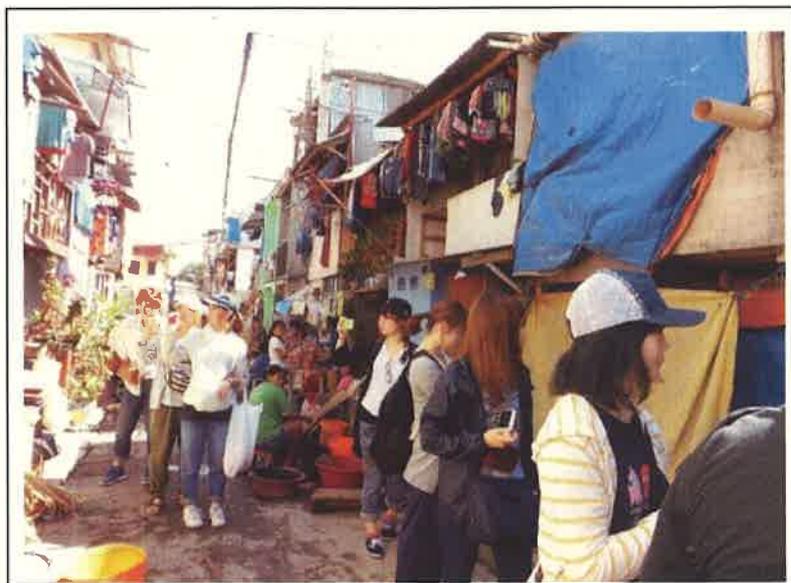
(第14号様式)

## 添付写真

事業名：フィリピンスタディツアー

団体名：ハートフル広島

1



説明：セブ島の貧困地区ロレガを視察

2



説明：ロレガの子どもたちとの交流・折り紙を教えた

3.



説明：USJ-R の授業参加 大学生が模擬授業をしている

4.



説明：附属高校のスピーチコンテスト

# セブ島研修



ハートフル広島

<b>実施時期及び 実施期間</b>	平成28年 2月19日（金）～ 平成28年 2月24日（水） （ 6 日間）
<b>実施場所</b>	フィリピン セブ島
<b>実施主体</b>	ハートフル広島

## 事業の目的

- ・ 途上国の実情を知る
- ・ 異文化交流、国際協力のためのセミナー  
フェアトレードの実施計画、英語コミュニケーション研修会の実施
- ・ 途上国を支援するというだけでなく、英語を公用語とする現地の学生との活発な意見交換
- ・ とともにアジアの未来を担う若者として、手を取り合うことができる絆と継続交流

参加者	大学生6名	<u>広島在住、在学の人数 6名</u>
-----	-------	----------------------

## これまでの活動

宮島にてサークル交流会を実施。観光客の外国人にインタビュー  
平和記念公園で外国人インタビューを実施。

宮島バックパッカーズに宿泊し、国内外のゲストと交流。

HIC主催の「世界まるごと体験デー」に参加。異国の食文化や風土について学ぶ。

3名の外国人講師の方から講義を聞く。フィリピン人講師：「フィリピンの経済事情」インドネシア人講師：「イスラム教について」インド人講師：「日本とインドの違い」

「広島国際交流・協力の日」に、ブースのボランティアとして参加。  
フィリピンスタディツアー説明会を開く。  
異文化シミュレーションゲームBAFABAFBAを行う。

第1回フィリピンスタディツアー会議。

大学間ボランティア団体との交流会

青年海外協力隊OBの講話。ツアーに向けての研修会（英語研修、異文化理解研修など）

フィリピンスタディツアー渡航決定

# ツアーの内容

- NGO団体との連携で現地ボランティア：貧困地域の視察
- 教会訪問
- 現地の大学生との国際交流会
  - 文化紹介 授業への参加
  - 座談会「フィリピンに必要な支援と実際」「アジアの未来を共に考える」
- フィリピンの産業の実態を知り、フェアトレードの施設見学を通して、自分たちにできることを模索

# NGO活動：格差社会の現実を知る



# 人々の暮らしと貧困



# 英語の授業

